

平成30年度

No.	区分	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
1	総合教育センター	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する小学校国語科の授業づくり	教育学部 (国語教育) 准教授 長岡 由記	県総合教育センター 所長 小倉 啓嗣	滋賀県総合教育センター 研究員 鈴木 愛子	「情報の扱い方に関する事項」と「読むこと」の指導事項を相互に関連させた単元を構想・実践・分析することを通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する授業づくりを行う。
2	総合教育センター	理科教育に関する研究	准教授 加納 圭	県総合教育センター 所長 小倉 啓嗣	研修指導主事 藤村 祐子	科学的に探究する学習活動を取り入れたり、観点別学習状況の評価等を行ったりして、探究の過程の充実に向けた指導と評価のあり方を探る。これらにより、高等学校理科の授業改善を推進し、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す。
3	総合教育センター	理科プロジェクト研究	藤岡 達也	県総合教育センター	不破 徹也(係長) 中島 真奈美 (研修指導主事) 田中 美甫(研究員) 堀 道雄(研究員)	平成30年度「同領域における小・中学校の学びのつながりを見据えた授業づくり」を主題とした理科プロジェクト研究を実施し、大学担当者としてもトータルアドバイザーとして、これに指導・助言を行う。
4	総合教育センター	情報教育に関する研究	○松原 伸一	県総合教育センター	研究員 田中 健亮	滋賀県総合教育センターの研究事業と連携し、「思考ツールによる家庭学習と授業との学びの連携を通じた思考力・判断力・表現力等の育成－高等学校における一人1台のタブレット端末の活用－」に関して共同研究を行う。
5	総合教育センター	外国語科教育に関する研究	○大嶋 秀樹	県総合教育センター 所長 小倉 啓嗣	研究員 藤岡 香織	インプットとアウトプットが往還する言語活動の充実により、主体的に考えを表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す高等学校外国語科の授業づくりを探る。
6	甲賀市教委	「国語科における学びのつながりをめざした授業改善」～子ども達が学びの目的をもち主体的に学び合う授業づくり～	教育学部 (国語教育) 准教授 長岡 由記	甲賀市教育研究所	甲賀市教育研究所研究員 村山 雅彦	国語科の学習において、学ぶ目的意識をもって、主体的に学び合う授業をつくるために、授業分析による授業改善を行う。
7	甲賀市教委	小学校における予防教育プログラムの開発・実践	○芦谷 道子 (准教授) 佐山 みなみ (大学院生)	甲賀市立伴谷東小学校 中嶋 政二	伴谷東小学校教諭 村田 吉美	不登校、いじめ問題への取り組みとして、事後対応のみではなく予防教育の必要性が注目されている。滋賀県の小学校において全校で継続的に取り組むことのできる、不登校・いじめ問題の予防教育プログラムを開発する。
8	大学	滋賀県における幼児の運動能力に関する研究(平成30年度)	奥田 援史	滋賀県教育委員会	スポーツ・健康課 (指導主事、内藤 康司)	滋賀県内の幼児の運動能力を測定し、体力向上のための基礎的資料を得ること。
9	大学	滋賀県学校安全教育推進プロジェクト	藤岡 達也	滋賀県教育委員会 事務局保健体育課	保健安全・給食係 指導主事 北川 英樹	滋賀県の地域や学校のおかれた状況を踏まえながら、実態に応じた学校安全の在り方を明確にし、県下における学校安全の推進を図る。

10	大学	企業との連携を考えた滋賀県の情報教育研修拠点整備に向けたプロジェクト	○岳野 公人	滋賀県立清陵高等学校 校長 石崎富治	教諭 村田 良	IT人材の不足が叫ばれる中、小学校にプログラミング教育が必修化され、情報の受験科目がセンター試験の科目に組み込まれるという案が実現しつつある。そこで、本プロジェクトは学校、企業と大学が連携した滋賀県の情報教育研修拠点整備に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、研修内容と拠点の整備に向けて会議を開催する。
11	大学	通級指導教室等の子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究(2)	○川島 民子 奥田 援史	草津市立浜川小学校通級指導教室 草津市立南笠東小学校通級指導教室 草津市立山田小学校通級指導教室 草津市立矢倉小学校通級指導教室	校長 清水 康行 通級担当 太田 恵 校長 西村 洋 通級担当 掛田 みちる 校長 時岡 善也 通級担当 小川 絹子 校長 大林 道範 通級担当 西田 史子	不器用で、運動が苦手と言われる発達性協調運動障害の可能性をもった通級指導教室等の子どもを対象に、通級指導教室等での学習活動について、事例を通して検討し、協調運動面を向上させる学習活動、指導内容・方法を明らかにする。
12	大学	学びに向かう子どもの育成 主体的・対話的で深い学びの実現 に向けた授業改善を通して	○畑 稔彦	長浜市立長浜南小学校 清水 伊佐雄	教諭(研究主任) 吉田 教人	本校では、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を通して、学びに向かう子どもの育成を目指している。児童の実態や課題ふまえながら、具体的な授業構築の方法を探ることをねらいとする
13	大学	生徒が主体的に学び、確かな学力を身につけるための学習指導 ～わかる・できる授業を目指して～	○畑 稔彦	豊郷町立豊日中学校 高畑 裕之	教諭(研究主任) 北村 俊	算数・数学の問題発見・解決のプロセスを意識した教材の開発が望まれる。とりわけ、D資料の活用(次期学習指導要領では「データの活用」)の実践事例が多領域に比べて少ないことから、重点的に研究を進める必要がある。
14	大学	理科指導力向上研修の企画研究 ～小学校理科 観察・実験指導の コツを学ぶ～	○糸乗 前	長浜市教育委員会 長浜市虎姫小学校 校長 大岡 義博	長浜市教育委員会 教育指導課 主幹 長屋 光彦 長浜市虎姫小学校 教諭 大橋 良平	小学校理科の教科書に基づいた観察、実験を安全に楽しく指導するために、教師が様々な体験をすることで、児童の実感を伴った理解に繋げることに重点を置いた研修を企画する。
15	大学	小学校における体力向上支援 プログラムの開発 ー新体力テスト「新・分析支援 システム」の活用と検証ー	○辻 延浩	県総合教育センター (所長 小倉 啓嗣) 滋賀県教育委員会 事務局保健体育課 (主査 内藤 康司) 滋賀県小学校 体育連盟会長 (東近江市立箕作小学校校長 町釋 恵)	研究員 大坪 臨太郎	滋賀県の小学校5年生の体力合計得点は、調査を実施して以降男女ともに過去最高値となったが、依然全国平均値を下回っている(男子:0.44、女子:1.19)。本プロジェクトでは、新体力テストの結果を学校・学級・個人レベルで分析する新支援システムを活用し、児童が自己の体力要素のどこに課題があるか発見し、その課題に応じて必要な運動を実践し、体力の向上を図っていくプログラムの有効性を検証することを目的とする。
16	大学	特別支援学校における音楽づくりの 授業開発プロジェクト	○林 睦	滋賀県立新旭養護学校 田中 浩一	岡 ひろみ (新旭養護学校教諭)	特別支援学校の音楽の授業で、打楽器を使った音楽づくりの授業開発を行い、普及推進のための研究を実践を通して行うことが目的である。

17	大学	子どもの造形活動の観察と理解	○世ノ一善生 藤田 昌宏 村田 透	草津市立玉川小学校	玉川小学校宇佐校長 河村 佐知子 太田 静香(図工クラブ顧問)	連携先小学校の図画工作の授業の見学や図工クラブのサポート活動を通じ、子ども達の造形活動に取り組む様子を観察する。これらの経験から、子ども達の造形活動時の協働性や相互行為を考え、学校以外での造形活動を模索・実施し、教育現場に留まらない子ども達の活動の理解を目的とする。
18	大学	小学校外国語活動・外国語科において求められる学習内容と学習過程に関する研究	○大嶋 秀樹	滋賀大学附属小学校 磯西 和夫 大津市立青山小学校 田中 誠	教官 仲村 晴美 教諭 谷口 優香	これからの小学校外国語科・外国語活動の目指す新たな方向性を見出し、効果的な指導法を明らかにすることである。 また、高学年の外国語科の学習においては、英語を読み書きに関する効果的な指導法をあきらかにする。
19	大学	石山っ子わくわく親子で畑体験隊	○森 太郎 與倉 弘子 久保 加織 石川 俊之	大津市石山公民館 橋本 美恵子 (公民館長)	石山公民館 生涯学習専門員 小松 文郎	地域の住民と連携(公民館、ボランティアスタッフ)して、小学生の親子を対象に畑体験活動を実施し、「食農教育」の地域連携プログラムを開発する。さらに、教育学部の学生が主体的にプログラムを計画・実施する場面を設け、教育現場において「食農教育」に対応できる人材を育成する。
20	大学	鑑賞学習ルーブリックを活用した授業実践に関する研究	○新関 伸也 村田 透	高島市立安曇川中学校 校長 下澤 辰次	教諭 堤 祥晃	美術鑑賞学習ルーブリックを活用した美術科の授業について、実際の教育現場で実践を行い、その効果や課題を分析して授業の内容や方法を模索する。
21	大学	チームで考える美術科の授業づくり ～若手・中堅教員を育てる 教材開発プロジェクト～	○新関 伸也	滋賀県中学校 美術教育連盟 委員長 伊庭 照実	教諭 堤 祥晃 (研究部長) 教諭 伊丹 賞子 (事務局長)	県内の中学校美術科の授業力向上のためのグループ別研究会を行う。 ・公開授業者だけでなく、多くの教員に学びが共有できるシステムをつくる。 ・複数で授業づくりをすることで、多角的、客観的な教材研究につなげる。 ・指導案作りから複数が関わることで、公開授業の研究協議が深まる。
22	大学	学校アート化計画 『グリーンちゃんがやって来た』	藤田 昌宏 (美術教育)	滋賀大学附属小学校 草津市立志津小学校 大津市立青山小学校 草津市教育委員会 生涯学習課	山田 和美 小橋 良平、木村 仁 (滋賀大附属小学校) 中西 さおり(志津小学校) 中川 理恵(青山小学校) 課長 相井義博 (草津市教育委員会 生涯学習課)	過年度に引き続き、本プロジェクトを草津市教育委員会との連携へ継続拡大していきます。子どもたちが多くの時間を過ごす学校園という空間をアート作品で“異化”するもので、学校探索から学校の怪談?へ、子ども等が身の回りの様々な事象を再発見することを促します。そして、そこから生まれる色々な反応で教員が日常の中の教科に留まらない学びに展開することを目的とします。

23	大学	教育学部発信！ 教育現場と連携した各種「イベント」 の企画立案と遂行の実践 (オペラ編)	○渡邊 史 畑 稔彦 矢吹 雄介 (附属小学校 教諭)	滋賀大学附属小学校 校長 磯西 和夫 彦根市立鳥居本小学校 校長 竹ヶ鼻 和友	滋賀大学附属小学校教諭 音楽担当 矢吹 雄介 鳥居本小学校教諭 音楽主任 東野 桂子	教育学部の学生たちが教員となったときに求められる「校内で行う各種イベント」の企画立案および遂行について、そのノウハウを「学びの期間」から身に着けることを提案したい。しばしば見られる「やった感・達成感」のみが結果…という状況ではなく、「質の良い時間・もの」であることを目指す。
24	大学	学習評価を軸とした授業・単元・ カリキュラムの評価・改善	○岸本 実	東近江市立御園小学校 校長 富江 智代乃 草津市立第二小学校 校長 北島 泰雄	御園小学校教諭 中村 和貴 草津第二小学校教諭 三浦 知也	子どもの学習評価、特にパフォーマンス評価と逆向き設計に基づく授業研究を軸に、授業・単元・カリキュラムの評価と改善の在り方を探る。
25	大学	幼児の協同的な遊びの形成に おける教師の役割についての研究	○菅 眞佐子	相愛大学 教授 中井 清津子 大津市立青山幼稚園 園長 山田 智子	大津市立 青山幼稚園 主任 松田久美子	幼児の協同的な遊びが形成されていくプロセスについて、教師の援助との関係から明らかにする。
26	大学	小学校特別支援学級に在籍する 医療的ケアを必要とする児童への 教育支援に関する研究	白石 恵理子	草津市立南笠東小学校 西村 洋	教諭 岩本 宏子 教諭 清水 智子	草津市立南笠小学校では、昨年度、身体虚弱児学級が新設され、医療的ケアを必要とする児童が看護師の付き添いのもと日々の学習を行っている。本年度は、昨年度の成果をふまえ、①教材研究と授業づくりをすすめること、②障害のある子にとっても、通常学級に在籍する児童にとっても有効な交流及び共同学習のあり方を検討すること、の2点を目的とする。